

はないでせうが。尤も空襲の混乱ではあぶないかも知れませんが。七日の地震は被害ひどく、名古屋の工場や学校は倒壊したものがあつた由、こちらの中学校の勤労働員の子五人死にました。

東海道線は天竜川の落下地域が割に広くて、復旧工事に手まどれる相で、そのため中央線廻りを利用するので輻輳激化で、東京行の切ぶは公用、軍関係の他は上野原までしかうらぬ相です。期間は今月中だ相ですが。精しい事は解りません。

鎌倉へは度々、御足労でした。有難うございます。うまく行つてゐる様子で安心です。それに肥つてゐたとのこと、よかつたです。途中で赤チャンに死なれると、残された母親は肥るのが一般的な現象の様です。私もさうだつたし、斎藤洋服店の妻君もさうでした。赤チャンのために、母体には相当量の栄養のストックがあるものらしいですね。

竹中さんとAさんの話、至極あり相な話なんです。それに分室の人々が暇さへあれば、あんな風に見合結婚を煽り立てては、流石の竹中さんもシーソーのようにボタン／＼するのも無理ないですね。分室結婚座談会、あれが男性の眞の要求なんです。でも本当の事も沢山含まれてゐます。妻の健康である事、若い事、家庭的で主人第一である事は眞理でせう。あなただつて、それには賛成でせう。私は全く妻君の第一、第二、第三の大切な条件をことごとく持つてゐませんもの。全く、あなたにはお気の毒ですわ。

梅干、近日中にお送りしませうが、はたして今年中につくでせうか。あぶないものですね。

白田さん、復帰する由、何よりでした。あなたも落ちつける事です。いろいろ、まのわるい説得などしなくて済んで何よりでした。此の前の手紙にも書きましたが、あなたがあの人をホめる事は、自然でもあり正当でもありません。いちはんわるい事は、恐らく、人が為たいと思つて為らないことだ”と、アンネットも申します。

”気の毒なのは不在者である。かつてあつた事も、此から起る事もし方がない。現在は大きな喉を持つてゐる。彼は一切を取る。一切を欲する。彼は一切だ”此の言葉の表す意味もこのまゝ消化出来ます。私はあなたを恨む心は全くありません。

暮の上京のおすゝめは前にも書いた切符の件、身体の件もあつて、一寸実行不可能です。あなたの休暇はあなたに一番好都合に御利用なさいませ。サッカリンもいただいても、紅茶くらのもの、そちらでお使用下さい。

先日、手紙でどうも森井さんのわる口書きすぎてしまつて、返す／＼も、今は嫌な気持です。だつて私は、実さいのあの人を一時間位しか見なかつたし、私とは始んど喋らなかつたのに、勝手に自分の想像を加へて、あの人をこねあげた

揚句、わる口を云ふなんて！ 本当になるかつたと思ひますわ。今は多いにあの人にあやまつてゐる心持です。あなたの手紙で、森井さんは他山の石的存在になつたとのこと、――私は余計に、まのわるい様な氣持がします。矢張り女も30を越すと、すなほでない、コチンとしたものを抱き始めるのですわね。若い程、それがいい。森井さんだつて今までの生活から、それ等を作つて来たのですから、一朝一夕にあなたの話はそのまゝあの人のもになると云ふ訳にはゆかないのでせう。白田さんの様に白紙の人と一諸に扱つてはむりでせう。

白田さんの挺身隊を止めた理由は、あまり立派な理由ではありませんね。矢張り心理的動揺から、必然なしに生れたものであつたのですね。それなら尚、其のまゝ工場へはいるのはいいけなかつたでせう。私は又しても白田さんの上にも、自分の想像の筆を加へてしまつてゐたわけね。矢張り長い間の直接の自分の目で得た判断でない駄目と云ふ訳ですね。偏見、主観と云ふものは、実に楽々と形成されるものだと思ひます。

昨日午後（十八日）から風越館にゆき、一晩泊つて風邪を引いて来ました。中々いい部屋です。私も本やふとんを持つてゆきたい位ですわ。こちらも時々十二月らしい雪がふります。

幸子

### 謙一から幸子あて（一九四四年二月二〇～二二日の記）

十二月二十日（水）晴

その後あなたの健康はいかがですか。寒い時は無理しないやうに。あなたは所謂冷え性かも知れませんからね。勉強も無理しないでやつて下さい。じつくりと深く理解するやうにすれば、量は多くを必要としません。

今日はお天気はよかつたが、西風が強くて寒い日でした。こんな日に焼夷弾なんか落されては大変だと思つたが、警戒警報だけですみました。

芦野氏の来る日だが、今日はゆつくり来ると云ふので、みんな落ちついてゐました。朝、堀江、竹中の両君がいそぐは入つて来たので、どうしたのかと思つたら、堀江君がリプトン紅茶とサッカリンとをもつて来たので、のまうと云ふのです。そこで何年かぶりにおいしい紅茶のみました。

「原稿出来たんかい」「いいや出来んよ。だけど昨日金ちゃんに渡しといたよ。今日は彼の感想をきくんだ。何て云ふか

なあ。金ちやんは一応わかるんだがね、やつぱり一応だけだ。本当にわかるんぢやないんだ」「さうだね。あなたなんかが苦勞して書くものと、隣の先生（西井君）が和歌をひねり出すやうに簡単に書くものと、質の差がわからないんだらうね」「だけどね菊池君。君の話をきいても書いたのを読んでも、むつかしいぜ。普通の人ならついて来ないよ」「さうか」「足立さんは、菊池さんは先天的に先生型だと云つてたが、先生型ぢやないね。君の理論を一応知つてる人なら理解出来るけど、普通の人はわからんよ」「そんなことないだらう。だつて君だつてついて来たぢやないか。君は普通のぢやないのか」「そりやさうだけど」「そりやさうだけど、やつぱり君だつて本当について来たんぢやなかつたね」「うん、さうだね。あれだらう。それで君は、僕が本当の意味では君の理論がわかつたのぢやないのだと云ふんだらう」「さうだよ。大体ね、日本ぢや読者の方もいかんよ。読者の読み方がなつてないよ。押しなべて金ちやん程度で金ちやん流だ。さあつと眼を走らせるだけだ。だから書く方でどんなに一生懸命になつても駄目なんだ。わかつた、わかつたと云つてもちつとも本当にわかつたんぢやないのだから。君だつてさうだ。不精で不勉強で怠惰だ。まだアメリカ史も読んでゐないんだらう。たつたあれつぼつちの長さなら、僕への友情だけでも読めさうなものぢやないか。読みにくいなんて云ふ読者は駄目だ。本当に知りたい欲求をもつてゐる人間なら、多少とつつきがわるくつても本当のことを書いてゐるものなら、わかる筈だし読む筈だ。本当に病気をなほり健康に生きて行きたいと思つてゐる人間は、苦い薬でものむぢやないか。書く方の側ではそりやなるだけ読ませるやうにすべきだが、読む方の側でも本当に読まなくちやいかん。友達で新聞記者をしてるのがゐたがね、日本の新聞記者のレベルが上らないのは、読者にも大いに責任あると云ふんだ。今は別だが、もつと前に幾つも新聞があつて、やめることもとることも自由だつた頃だがね、日本の読者は新聞を本当に読むんぢやない、惰性でとり、読まんと不便だから読むにすぎない。どんなつまらんことを書いてゐても同じ新聞を読むつづける。批判して、この新聞はつまらんことをかくから買はない、之はいいこと書くから買はうと云ふのぢやない。新聞記事の質のよしあしがわからないし、わからうともしない。だから新聞をとらせるのにナベやホウチヨウや芝居の切符などで宣伝する。新聞記者だつて一向まじめにならない。与太を書いてゐても買つてくれるのだから、書き易い方の与太ばかり書いてゐる。さう云つてゐたがね。現在の本を買ふ連中、いはゆる読書人の態度もさうだ。何でも見さかひなしに買つて読むんだ。林房雄なんてのさぼるのは、そんな無責任な読書階級が、眼鼻がなくて口だけしかない『ワイワイ』連のやうな読書人が、見さかひなしに本を買ふからだ」「耳がいたいね」「耳もあつたか。とにかくだね、全身全霊をうちこまない、いい加減に悪達者に書きなぐるブック・メイカー達がはびこつてゐるだね、本当に熱

情をこめて書く人間がわづかしかるないと云ふことは、さう云ふ読書人、サロンの読書人しかるないからでもあるんだ。結局このことは日本の文化的低さ、社会的開明度の低さの問題になるんだがね。しかし少くとも君なんかはもつと考へんといかんよ。本もいい加減に読むが、結婚もいい加減にする。金があるから買ふのに困らん」。

「さう云ふなよ。だけどね、君は理論的に行動することをモットーにしてゐるが、白田君のことは、あれは君の失敗だよ」「何だつて」「白田君はね、資料課へまわされたんだ。昨日本室へ行つたら会つたがね、大分弱つてゐたぜ。朝夕通ふのはくたびれるし、昼食は食べられないし、何とか経堂へ帰れんかと云つてゐたぜ。あれは君のやりかたが悪いんだ。第一、最初からいかんね、条件もきまらないのに辞表なんか出してしまつてさ。辞表は君が保留しておくべきだったんだよ、はつきりきまるまではね」「うん、それも考へたがね、彼女の決心を上げます意味で、つい早く書かせて了つたんだ」「それからね、今何も工場なんかへ行かなくていいぢやないか」「そりやさうさ。工場へむりやり行かされるんなら仕方ないが、自分から進んで×××機械なんかつくる手はないさ。だけどね」「それから彼女のやめることを中尾さんに話す時ね、君の仕事にどうしても彼女が要るんだが、万やむを得ないから手放すのだと云ふことをもつと強調しておくべきだつたよ。そしたら、帰つた時、こつちへ入れられたんだからね」「そりやさうかも知れない。だけどね」「まだ文句あるんだ。今からでも電話で中尾氏へ云つたらどうだね。白田君が資料へ行つたさうだが、どうしてこちらへ来ないのか、仕事が急ぐからどうしてもこちらへまはしてほしいと云へばいい。僕から云つてやりたいくらいだけど、僕からぢや変だからね。僕もいつか足立さんを資料へまはせと云はれたとき、断然はねつめたよ。足立さんは英研で要るんだからと云つてね。大体君は全部イニシアティヴをとられて黒星ばかりぢやないか。もつとイニシアティヴをとつて積極的にやりやいいぢやないか」「おやおや、それは僕が此の間中、君にさんざん云つた言葉だね」「さうだよ。君は何でも理論的にやらんといかんと云ふくせに、現実ぢや負けてゐるぢやないか。何もかも君の黒星だよ」「しかしね、君。他に考へかたもあるぜ。そりや僕ももつとやりかたはあつたとは思ふさ。だから僕の黒星はひとめるよ。だけどね、大体工場入り挺進隊入りを決心した彼女がだね、資料課で高木さんの下にゐるのがつらいとか、朝夕通ふのがつらいとか云つて弱つてゐるなんて、矛盾ぢやないか」「それはさうですよ。挺進隊も仕事によつて大変らしいからなあ」(之は堀江君)。「さうだらう。大体彼女はまだ甘さがぬけ切つてゐないよ。辞表出したところへまた帰つてくると云ふのも甘いし。だからね、弱つてゐるから何とかしてやれと云ふ君の同情は悪くはないがね、この際はむしろ彼女に暫くそのいはゆるつらい環境、つらいと云つたつて外の女の子だつてみんな本室へ通つてゐるんだし、仕事も大したことないんだ

から、その条件とたたかせるべきだと思ふ。君が同情するならば、その方向へ元気づけてやるんだね。僕だつてさう云つてやらうと思ふよ」「そりやさうだな。だけどね、あの人事もシヤクなんだよ。研究員に相談もしないで、勝手に女の子の部署をかへるなんてシヤクだよ」「尤もね、臼田君が昼食や交通ひに困るやうなら、上北沢へかはらせてもらふやうにしてもいいがね。上北沢なら交通費はかからんだらう。僕も中尾さんに云つてみるがね……」。

芦野氏は警戒警報を先触れのやうにして、庭からは入つて来ました。「菊池さん、エルケーニツヒ弾けるやうになつたかね」「いやあれは手がくたびれて、まだ半分までしか弾けません」。竹中君がわきから「此の頃はシヨパンをやつてゐますよ」「さうですか。いや君がエルケーニツヒ弾ければ、僕が一つうたつてみようかと思つたんだがね」。そして原稿については、「長すぎるけれど中々面白く読みましたよ。よく研究して書かれてゐる。中々いい。あの調子で外のもの書いて下さい」と云ふことになりました。僕の苦勞はわかつたのかどうかはわからぬ。

今日は野菜の買ひ出しで、やつぱりかぶらしか買へなかつたが、霜解けのぬかるみで下駄の緒を切つてしまひました。さんざんです。

午後から夜へかけて、また独立戦争終結契機を書き直しにかかりました。一回書きなほす毎にどこか前の物足りない部分がつきりわかつて来ます。プランテーションの歴史（調査会の原稿）は、そんな風に何回も何回も書きなほしつつ進んで来たものでした。「プランテーション」の方は、緒論はそんな風だつたが、あとはそれほどでもなかつた。尤も、第三章、第四章はぜひ分何度も書きなほした。書きなほしてだん／＼よくなつて行く時はうれしいが、一向うまく行かない時はいやになります。今の原稿は書きなほす度によくなつて行きます。

では今夜も十一時ですから寐ませう。警戒警報（さつきとけました）も、今夜は早かつた。昨夜のは、目黒と世田ヶ谷との境目あたりの多摩川辺へ焼夷弾がおちて、大分火事も大きかつたさうですが、見なかつた（床の中にある）。

十二月二十一日（木）晴

昨日も今日も御手紙来ないが、どうしましたか。やつぱり身体がよくないのですか。それとも僕の手紙で気を悪くしてゐるのですか。どうか機嫌をなほして下さい。そして誤解をわざ／＼固定して拡大したりしないで下さい。僕も君の気持への思ひやりが不充分だつたことはおわびします。手紙は届いてゐますか。それより小包みはどうなつたかしら。今日もタバコの配給日で、この十日の分も（アサヒ六十本と光十本）あるのですが、小包みが見つからないとすると、困りま

すね。今、東海道線の故障や中央線の混雑や貨物の混雑で、つきにくいのかもかもしれませんね。お父さんも御困りでせう。あなたへもお金を送らうと思ひ乍ら、郵便の不安ではちよつと送れませんね。電報カハセでも送らうかしら。書留がつかないやうぢや本当に困ります。

ところで、竹中君の結婚の相手のこと書いたかしら。彼の相手と云ふのは、やはりA君の持つて来た話ださうです。A君の夫君、西川氏と云ふのは四十二か三ださうで、長年イギリスで貿易商をやつて来たが、その関係で知つてゐるどこかの重役の娘。年は二十三才で、どこかの女学校を出て、外国の学校にも暫くゐた、趣味は音楽でピアノをひく、明るい娘さんだから、よく話せば理解し合へると思ふと云ふのです。「さうきれいな人ぢやないが、写真よりはよかつたよ。話すことがなくて弱つた」「何を話したんだね。サロンのなことだらうな、どうせ」「さうだね。だけど相手の人は何にも話しないので、妙だつたね。時々笑ひ出したくなつたよ、何となくおかしくなつてね」「冗談ぢやないよ。相手の彼女にとつては一生の重大事なんだがなあ。とにかくどうだね、自然ぢやないだらう。人間のすることは思へんだらう。それで君はもうきまつたのか」「きまつたやうなものだらうね。けどね、Aさんは僕のことをよく知つてゐる。西川さんは彼女のことをよく知つてゐるんだよ。だから全然知らん人が持つて来たこと云ふよりはましだらう」「さうだね、危険率は少いかも知れんな。だけど君はAさんが君をどれだけ知つてゐると思ふのだね。A君は人を見るのに逆も感情的だよ。競争心が強くて嫉妬深くて、到底人なり現実なりを正確に把握出来る人ぢやないよ。第一、西川氏との結婚だつてどうも僕には納得いかないね。本当の人間理解の上に結ばれた結婚とは思へないんだがね」「さうだね。僕もさう思ふ。大体西川氏の方が積極的だつたんだ。だけど西川氏はロンドンに妻子があるわけだらう。その方をちやんと正式の手続きをやつたさうだけど、何だか彼の気持は便宜主義①のやうに思ふんだけどなあ」「さうだね、便宜主義的要素は極めて多いね」「それでAさんの方もさうなんだよ。Aさんにしても西川氏に本当の愛情をもつてゐるわけでもないし、家の反対も大きかつたらしいがね。やつぱり年も年だらう。それにAさんの性格ぢや、大人しい相手ぢやないとうまくおさまらんだらう。所が西川氏は英国式の紳士なんだよ。人がよくて大人しくて、とにかく大人なんだね。だからAさんも相手の大人しくて紳士であるところを利用したやうなものだ。西川氏の方でもAさんの親切なところを利用した感じだ。だからね、僕の結婚の方がAさん達のよりまだ自然だと思ふよ」「自然ぢやないよ。君の方が非人間的だよ。彼女達とはかく、どんなに矛盾が多くても、自分の責任に於て結婚したんだからね。いけなくなればきつと自分で責任を以て処置するだらうよ。君は全く種馬②みたいなもんだ」「種馬とはひどいね。だけどね、僕は君の云

ふこともわかるし君の感情もわかるし、いろんな点で似てゐるんだと思ふけれど、ちよつとちがふね」「ちがふよ。君は現実と妥協することを肯定し、僕は現実とたたかふことをモットーにする」「さうなんだ。だけど僕だつて現実とたたかふことをやつてないわけぢやないよ」「だけど決定的なことゝ妥協する」「さうかなあ、決定的かなあ」。

「決定的だ。そのことはやつてみればわかる。いい人間関係、正しい人間関係なら君はそれを通じて変革され進歩する。あはされた関係、くつつけられた関係では人間が墮落する。君は結婚生活が人間の個人生活に於てどんなに決定的かを、推察出来ないかね。それだけいろんな小説を読んでもわからんかな。尤も日本ぢやたしかに男にとつて家庭生活は決定的でない」と云ふ可能性もないではない。けれど女にとつては決定的だよ。女にとつて夫と本當に理解し合へない、理解してもらへない、と云ふことは決定的不幸だよ。大体君はつまらんことでは、負けても勝つてもそんなに重大な結果を及ぼさないことでは現実とたたかふかも知れないが、重大なこと、負けることが致命的になること（自分にとつても他人にとつても）では妥協するんだ。そしてね、現実といつてもたたかふ人間には、健全なもの、人間的なもの、普遍への結合努力、歴史への合体努力、現実とのたたかひを昂揚したものがいつでも必要だ。反対に現実と妥協して行く人間は、サロンのなもの、倒錯的なもの、病的なもの、非合理のもの、遊戯的なもの、をほしがるのだ。」「さうだね、さうかも知れないね。とにかく僕は、君の云ふサロンのものをやつぱりなくしたくないね」「さうだらう。僕はだが現実とたたかふと云ふ言葉で、自分の中の現実とのたたかひも含めてゐるんだよ。それはね、外の現実と本當に正しくたたかふためには、自分の中の不純、おくれたもの、反歴史的なものとの徹底的なたたかひが必要だからだ。」「さうさう、それなんだよ。その自分の中とのたたかひと云ふのが苦しいんだ。しかも君はね、自分の中のいろんな要素を論理的に一つ一つぶつ叩くだらう。僕はそれをされたくないんだ」「さうなんだらう。自分の中の後れたものをなくされることゝ、まるで自分がなくされるやうに感じるんだらう。だから苦しくて、そんなにつつまないでほしうて云ふんだらう。そんなにつつまなくても、自分でもわかると云ふんだらう。自分でも時がたてばはつきりわかるから、それまでこの傷をそつとしいてくれと云ふんだらう。さわられると痛い。若しそれが化膿してはつきりと手術せねばならんかわかつたら、自分で積極的に手術してもらふ。それまでは余りさわらんでほしいと云ふんだ。ところが僕は化膿させない間に手術を加へたいのだ。傷をほつとけばほつとく間だけ、君は人生をさぼることになる。所が君がさぼることは、歴史の進行の邪魔になる。そんなつもりがなくても邪魔になる、障碍になるのだ。だから歴史の障碍にならんやうに、傷をなほせと云ふんだ」「わかるけれどむづかしいね。」

暫く配給がなくて、この二、三日はかぶらのふかしたのか、でなければ塩あじ(5)のごはんだけ、昨日みそが買へたので、昨夜と今朝と昼とはみそをおかず、と云ふ調子だったのが、今日はいわし二匹、小松菜と、とうふ半丁の配給があったので、みそ汁をつくつてめしらしめしをたべました。

さてまた原稿のつづきにかかりませう。

身体を本当に大切にして下さい。そして、もつと僕を信頼してみて下さい。僕が自分で自分の感情をいつでも制御して、正しく、歴史的な生きかたをして行くことに一生けん命になつてゐるのですから。この八年のあなたとの生活を通じて、常にさうだったのであり、いつでも反歴史的な考へや行動におちさうになつても、絶対におちさずに、やましいことなく生きて来たつもりなのに、どうしてそんなに不信を受けねばならないのでせうか。一時的な感情や表情を、どうしてそんなにひどいものに云ひ立てられねばならないのかしら。あなたが疑ふやうなことをする人間なら、どうしてこんなに衆人の中で、人に毎日正義について語り、また本当のことを書き、あなたへもこんなに自分の生活を出来るだけ書かうとし、「ブランティション」を書いたり出来るでせう。そりや僕も、あなたの感情をはばかつて、かくさんでもいいことをかくしたり、時にはうそをついたり、感情をいつはつたり、依(依怙)古持(依怙)になつたり、わからずやになつたりして来たけれど、それらはあなたとの生活を危くするやうな、またはいつまでも持続したやうなものでなかつた筈です。僕も人よりは誠実に、自分の性格や感情の欠陥をなほし、人格の完成へ目ざしてゐるつもりですが、あなたはさう見えてくれないのかしら。僕がまちがつたことをしても、あなたに指適(指適)されれば正し、わびもし、基本的にはいつでもあなたへ誠実に、あなたの信頼に価ひするやうに生きて来はしなかつたのかしら。だのあなたは、ちよつとしたことをとらへては、それを大げさに悲劇的に結論しようとし、それを固定し永続するものにしよつとす。そのやりかたは卑却(卑却)だとさへ云ひたい。ただあなたが身体が悪かつたり、気持が孤独のために弱つたり疲れてゐたりして、さう云ふ風なことを云ひ出すのだらうと思ふから、「卑却」だと云ふ風な強い言葉をつかはないだけで、余りしつこいと怒りたくなくなるぢやないですか。本当に僕も注意するから、そんな風に一々誤解を大ゲサにしないで下さい。僕が原稿などを書かうとする時は、そんな風なことがどれだけ有害な作用をするか考へて下さい。その為のベン解や僕自身の気持(気持)のみぢめになることやが、どんなに時間と精力との浪費になるか。でももうよしませう。ただ誓つて信頼してほしいとだけ云つておきます。



## 幸子から謙一あて（一九四四年二月二日の記・消印）

十二月二十一日

今日、つてがあつて、干柿を一貫匁たのみました。40円で高い様ですが、さつかりんよりはましかと思ひますから、来たら梅干と一諸にお送り致します。何時ごろ届くかわかりませんが、お正月用のおくりものと致します。お好きな様に処分なさいませ。

独立戦争、書き終つた由、すこし重荷が下りたでせう。西井さんの分までも負担しては中々骨が折れますね。芦野さんの信頼や好意にあまりむくゐてなかつたのですから（？）、もう暫く頑張つて、満足ゆく様な仕事でお返しなさる事は当然でせうと思ひます。仕事が増えても、結極あなたの勉強にもなる訳ですものね。寒いし榮養はとれないし辛い時ですが、最悪の条件で出来る丈最上の仕事をするのも、又ゆ快な事ではありませんか。

稲ちやんのアパートの件、種々お骨折下さつて本当に有難うございます。みつちやん達の事と云ひ、いねちやんの引越と云ひ、何度も御迷惑をかけてしまつて、太切な時間を随分むだにしてしまひましたのね。すみませんでした。みつちやんからお母さん宛の手紙で、赤ン坊の時も召集の折も来て貰ひ、いろいろいただき感謝してゐると書いて来ました。稲ちやんの新任所は矢張り世田ヶ谷ですか。あの人は例の如きのんき者ですから、何時知らせてくるかわかりませんか、精しい住所、おついでの時お知らせ下さい。

私へ何か下さるさうですが、別にほしい本も物もありませんから、無駄なお金は使はぬ様にして下さい。それはさうと、まだ本も煙草も届きません。あきらめた方がいいでせうね。もう廿一日目です。お父さんにもあきらめなさいと申しました。当てして毎日、今日こそ今日こそなんて云つてゐるのが、もう当てに出来ませんものね。

森井さんが仕事を探して下さいのですか。長野市の方の紹介なら、多分長野か松本地方の仕事になりませうね。何れ森井さん方もあちらへ疎解してお仕事する訳ですから、大体同じ職場になれますわね。

桃ちやんの手紙で（代筆で）びつくりさせた様ですが、もう元の様に戻りましたから御懸念なきよう。下痢は熱よりもこたへ方も激しい代り、恢復も又早いものです。

二、三日、又、魅せられたる魂をよみ返しました。前にはアンネットの像が視野一杯占めた如き感が有りましたのに、

今度はマルクの方が鮮明に浮んで出て来ました。矢張りマルクの方がアンネットを越えてゐる点がありますね。アンネットが意識的に求めなかつたものをマルクは求めてゐる。——常に行動の指針を。指針としての論理を。アンネットは盲目的にたましひがそれを求めると云ふ風に感じ、それ丈で先を求めないのに、マルクははつきりした理論の裏づけなしには不安を感じる所があります。アンネットの生きて来た道は、戦つて勝つて来た路であつたが、それはアンネットが天的にすぐれた血を持つてゐた事に原因する様に見え、彼女自身の意識的な努力、克服と云ふものははつきり見えぬ。そこにアンネットのすぐれた素質は認めるが——前よんだ時の様な、アンネットへの全般的な尊啓は今度は持てなかつた。彼女はまつすぐに進み時には躓くが、必ず前より元気に起き上る。それは彼女の魂が彼女に本能的に命ずるのだ。彼女のブルゴーニュ氣質の血潮が、躓けば倍ましのはげましを与へるからだ。と云ふ風な表現が、さう思はせるのかも知れないですね。苦斗(あつ)の生活を通して尚強くなるには、経験から教訓を得たからにちがひないのですもの。此度読んだ時はアンネット個人の面白味はうすくなり、其の他の群像が前より鮮明になりました。シルヴキもさうです。シルヴキはアンネットと異(ちが)ふ方法を人生に採つた様に見えたが、シルヴキも又、彼女なりに全身の力をこめて生きて来た事がわかります。アンネットもシルヴキも論理づけを求めなかつた。シルヴキの方がアンネットよりも市民的で俗な生き方を選んだが、彼女のミリユウから考へて当然で、シルヴキはまはりの人の生活に対し、自分の生活に対し、とに角確固たる信条を持つて批判をしてゐますね。前にはシルヴキとアンネットとひどく異ふ様に見えたものなのに、今度はどうも前程其の差が感じられない。むしろシルヴキのよさが見えました。シルヴキは少(ち)さくとも卑(ひ)少(ち)でも生活から得た信念があつて——(後天的)それを指針としてゐるところがある。アンネットの言葉にははつきりしない抽象を時々感じるが、シルヴキのそれには抽象がありません。彼女の今の言葉は何処から来て発したもののか路がわかる。ところがアンネットとチモンの場合、私にはアクロバットのダンスの如き感を与へられる。ひどくあの辺はあいまいもことかすんでゐる。アンネットがチモンに対して優越を得て来る過程は、現在のフランスの一聯の心理描写の小説そつくり。自分丈わかつた顔で押し通し、理解出来ぬ者は下等だと云ふ様な一人(ひと)よがりや、シユールの絵を見る如き感じがあります。あの辺からアンネットは神様の存在に、隅(すみ)像にまつられ始められます。あの辺からアンネットは、私にはみ力がうすくなる。むしろあのころからシルヴキは生きて来るのに、アンネットは死に始める。アンネットとキヤレンツア伯、アンネットとジュリアン、アンネットとジュールジューの關係にはいると、アンネットの生々しい呼吸はきこえなくなる。観念化されたアンネットが浮いて来る。アンネットも其の他の人も影絵の様にかすんで、み力なし。生きて来るのはアーシヤ一人

です。マルクの死後、アンネットも実は死んでゐますね。動いてゐるのはロマン・ローランにまつり上げられた観念のアンネットです。最後までよませるものはアンネットでなくて、当時のヨーロッパの状況です。

又まちがった一人よがりの批評をしたかも知れませぬね。よみ始める時は、この中から力を得たいと思つた事はたしかでした。けれどよみ終りかけの頃は、圧倒されもなくなつたし、始め得たいとのぞんだものは得られなかつた。だけど失望はしなかつた。むしろこの中から力をではなくて、自分の中に、それにふみつぶされぬものがあつた事を知つた様な心持がしました。

それからつづいてアナトオル・フランス。清潔でこぎれいで、一寸皮肉で博学で―短篇集の始めではアナトオル・フランスもたいしたものではありませんね。一聯のフランス革命ものの短篇、六ツ七ツ程よみました。フランス革命を此のように扱ひつつ、遂には神々はかほくまでに至つたのですから―かんとんにこぎれいな皮肉屋さんなんて云へませぬわね。併し、こんな短篇を書いてゐた彼が、何時どんな訳で、どんな風にして、神々はかほくまでにゆくのかと云ふ好奇心(?)を犬のはなとして、頁のスキ／＼まで嗅ぎまはし乍ら、一通りここにあるフランスをよんでみませう。下らないお喋りを致しました。

此の頃、わる口ばかり云つてゐる様で恥かしいと思ひますが、何故だか皆、よむものが不ままで、どつしりとこたへないのです。ヒステリーのせい②ですかね。  
さようなら③。

### 幸子から謙一あて(一九四四年二月二日の記・消印)

- ・判は25日までに来る相です。
  - ・切手が買へないとのこと、20枚あげませう。
  - ・稲ちゃんから今日(21日)手紙が来ました。従つて新住所もわかりました。
  - ・森井さんも臼田さんもいい人だと云ひ、就中臼田さんは無邪気④でかわいい人だとほめてゐました。
- では今日はこれで。

廿一日

謙一様

幸子

## 幸子から謙一あて（一九四四年二月二日の記・消印）

十二月廿二日

本日ようく小包み到着致しました。スタンプは五日です。十八日目に届きましたのね。東京信州間はペンよりも遠い事になりました。煙草の配給は廿日の筈が、煙草店の主人が留守なので今日に至るもまだなく、お父さん気の毒な位しよげてゐましたので、早速持つて行つたら、あのニコく顔！本当に有難うございました。大分すれて、茶いろの粉が手のひら一杯位こぼれたり、よぢれて紙がとけたりしてゐたのも10本位ありました。お父さんに2-3、1-3はぶうちやんにあげました。

この分では干柿送つても何時着くかわかりませんね。お正月はお正月で、又郵便配達は休みがあるし。途中で抜かれたりせぬ様に嚴重に作りませう。一月中に着けばいいとして。併し、まだ肝ぢんの柿は届いてゐませんが、今日中には来るでせう。いねちゃんにすこしわけてあげて下さい。お正月のおくりものとして。実物来始第、作つて送りませう。郵便局へ行つてお金も出してこなくてはならぬし。それとも一月においでになるなら、その時までとつておきませうか。むしろ其の方が早いかも知れません。と云つて、一月と云つても三十一日あることですから。まあ、来次第送りませう。プランティションは第三章第二節が終りかけてゐます。本年中にノオト丈はとりませう。来年ずつとまとめてよみ返すプランで。病氣此の方、はかばかしく進みませんので、ノオトも日に8枚位の日もあるし、一枚の日もあるしですので、第二節にかかったのは十六日からですが、まだのろのろしてゐるわけです。早く全部すませ度いと思ひ乍ら、本当に困りました。

昨日、寛ちゃんから手紙が来ました。住所は青山北町の前の郵便局の主事の家のようです。学生と職工の区別がない今日だから、学校は辞めて東宝へ就職する決心だとありました。何だか前よりもつと不真面目な感じのする手紙でありました。

此のごろ毎日、一日の中の何時か雪がチラめきます。信州の寒さは東京とは又別です。着ぶくれて動きのつかぬ位にしてゐませんと、すぐ故障が起ります。亀ノ子みたいに、ころんだら自力で起きるのは無づかしい位です。

お仕事は進捗してゐますか。いろいろ途中で引越とか何とか雑音がはいるから大変ですね。それに安みんは出来ないし。

併し、今度の住居は勉強にはもつてこいの条件ですから、前の様な家事的雑事やうるささがなくて、どんなにかいいかわかりませんね。島谷さんの召集の件お話ししたかしら。十月始めから大阪のようです。加藤さんから知らせがありました。あの方は徴用で横須賀です。  
では煙草のお礼までに。

謙一様

さようなら

幸子

### 幸子から謙一あて（一九四四年二月三日の記・消印）

十二月廿三日午後、干柿と梅干を書留で発送しました。郵便局の話では年内に届くとの事です。こちらからはおくれる筈はないからと申しました。他に何か一諸（お）に入れ度いと思つたが、あいにく何もありません。干柿も箱のかけんで一貫匁（お）はいらなかつたので、60—70匁位だと思ひます。本当なら藁の上にならべておくのと粉をふいて来て甘くなる相ですが、大きい方の箱のすきまに藁をすこし詰めておきましたから、其の様になすつたらいいと存じます。判はあさつて出来ませんが、どうします？ すぐ送りますか。本の出方が早い様なら至急送つた方がよろしいでせうね。今日は又一寸具合わるく苦しいので、短い手紙ですみません。たいした事はありませんから御懸念なく。では小包み発送の通知までに。

### 幸子から謙一あて（一九四四年二月下旬の記）※

十二月二十日附お手紙落手致しました。

大分おいそがしい御様子ですね。空襲の件は度々信越地方の名前が出ますが、此の辺は未だ何の被害もありません。東京の方に警報の出る時はこちらも同様ですが、まだ一度も空襲警報に見舞はれる事なしで、何と云つても呑気なものです。あまり度々の来訪なので、此のごろは前の様な心配や不安は抱かなくなりました。世田ヶ谷方面の安全さを知つたせいもありませう。東京では警報の度に起きる様ですから、睡眠不足で皆困るらしいですね。内藤嬢も手紙でねむい〜と書いて来ました。旧市内の方は警報毎に戸、障子をあげ放つ相ですから、解除になつてもすぐはねられぬらしい

し、風邪引きも多い様ですね。被害は空から降るものばかりではありませんね。家でも今日は馬穴(ウマ)を水を張つて廊下の隅々におきました。先達は庭で梯子のけいこをして屋根に水をまきました。皆中々うまいものです。

ダイヤモンドの原稿は凄くわる口を申してすみませんでした。あれはあなたの原稿とは云へませんものね。二番せんじよりか、もつと落ちます。グローヴの原稿をお見せ下さる相で楽しみにまちませう。これは自信あるとのこと、期待致します。

独立戦争の骨組、みせて戴きましたが、あれ丈では私には内容をよみとれません。竹中さんの話では大分いい様ですから、これも又楽しみにしませう。プランティシオンが片つかない中、次々と来ると、何となくあはたしい追はれる様ないら立しさを感ずますが、プランティシオンさへしつかり消化し、自分のものに出たら後は楽だらう、苦あればらくありと思つて、せいぜいはげみます。

あなたはシーズン来たれりと、冬將軍にもう凱歌をあげてゐて、羨ましい事です。私は彼には毎年叩きふせられます。一昨年も昨年も、今年も。風邪と下痢、両者はまるでプランティシオン制度とアメリカ資本主義との如き関係で、両方からみ合ひつつ私に障害を与へあひます。高村光太郎やあなたは冬を歌ふ人たちですね。あなた方の身体の芯は鋼鉄製なのでせう。私も何時の日か、冬の厳しさをほめたたへたいものです。

夜更や未明の仕事のために炬燵を使つたら如何？ あそこに置いてありましたね。中に入れる足台も、あれはどうなすつたの？ お使ひになればいいのに。せめておふとんの中を暖めて置けば、短い時間ぐつすりとお安眠出来るでせう。いろいろも暖まる。

プランティシオンは案外早く出さうなんですね。

今日はアナトオル・フランス爺さんを訪ねました。彼氏に逢ふ時は身だしなみをして、香水位つけなくてはいけない様な気がします。矢張りフランス人ですね。今日の彼氏の話はシエナやフィレンツェの古い町の図書館の事、ランチエスコ派のお坊さんの話です。何と皮肉な人でせう、彼は。お上品な口ぶりで、信仰深さうに坊さんの話をバステル画の様に描いて見せてくれますが、よう／＼顔を見てみると、中々面白い事を時々云ふのです。お坊さんたちは皆、彼氏の友達で至極話があつて、散歩するらしいのですが、そして彼の口を借りると、お坊さんは思考する事、行動することはわるい事で、神の啓示をよみとるのは単純で無智である事だと云ひます。彼はルシフェルがとても好きの様です。チヨイ／＼ルシフェルの事を云ひますが、彼のルシフェルは理性とか研究の別名で、ルシフェルは色は黒くて、聖ミカエル

位美しい相です。そしてルシフェルは単純無智の修道僧をチヨイ／＼いぢめて、真実を語つて困らせ様と試みるが、フランチェスコ派の坊さんはありませんにも知る事、考へる事を嫌ふので、ルシフェルは失敗します。彼のルシフェルは決して卑屈でなくて勇敢です。話の中ではフィレンツェの画家スピネロの一番ルシフェルをよくあらはしてゐました。一寸お話しませうか（以下、スピネロがみた夢の中のルシフェルの語りが抜き書きされているが省略―編者注）。

それから陽気な画家のブオナミコ・フアルマツコの話、これは又愉快。人間悲劇はまだ半分しか書いてゐませんが、これも又、理性はサタンの形で時々出て来て活躍する。此の中では9の清浄の家が面白い。これでアナトオル爺さんが後日、神々はかわくへゆく道はある程度見とをせませす。何食はぬ様子で無知単純の修道僧フラ・ジョヴァンニに、来たるべき人類平等の世界、社会を語らせませす。ユートピアの世界でも天国の世界でもない、もつと近代的なある社会を暗示する。其で社会の不正をはつきり見て、怒つてゐる石切工に、「此の男は新奇な事をぬかす。俺の目の見える中は、俺のしあはせは終らぬが、俺はしあはせな気持で死ぬ。俺の目の中に正義の太陽のれいめいを信じ乍ら」と云はせる。石切工はジョヴァンニの言葉の中に、社会の正義、人類の進歩をよみとつたのです。

今までのところ、爺さんの話はすばらしく博学で上品で美しく皮肉ですが、サタンやルシフェルの表はす理性はまだ学者的であります。それでも、後日へゆくものを感じさせて、中々み力ある話ぶりであきませぬ。暫く、ひるまの一時間は此の人を訪ねて、お話をきかうと思つて居ります。あなたの抗議について。

私があなたを異性との交際の点で制縛し拘束する、自由にさせてほしいとのお言葉、ルシフェルではありませんが、不当に人を傷つけるものではありませんね。たとひ相手が劣弱者であつても。

此の件では此の前話あつて以来、既に了解済だと私は思つて居りました。私の方では（主観的、一方的であるかも知れませんが）其の域を脱したと思つてゐました。お二人の自由な友情関係の発展を、何も拘束し阻害した覚えはさらさらありません。それなのにあなたは、未だに私が其の域にゐるものと考へておみでたつたのですね。私の、あなた方に抱く関心の内容を、あなたの方で勝手に貶しめて見ておみでたつたのですね。黒人の貶黜を云々するあなたが、とに角、低い状態から抜けて来てゐたと思つてゐる（事実さう思ふ）私を―あなたの望む通りに正当にあなたの方を理解し、私も又其の中に加つてゐたと思つてゐた私を、又、元の穴ぐらへ、け落すおつもりなのでせうか。私を低め、いやしめて、あなたの方の外へ追ひやる気持を抱いてゐられたのでせうか。仲まだと思つてゐる者を、冷めたい、いやしめの言葉でつ

き放してゐられたのですね。

併し、事実、公平に見て、今も尚私が、あなたの友情関係の存続や、其の発展を拘束し阻害してゐるのですたら、私はまるでアメリカ史に於けるプランテーション制度の如き存在であるのです。すぐれた仕事をなしとげる自信あるあなたがあり、そこにいささかのヨーシヤあつてもいけません。

さて、私の側から申しますと、私の考への中には、その様なものは今は全くない様に思はれ、あなたの言葉は不当に見えます。私は反省過少のためか、今度の件についても、誠心、あなたの側に立ち、あなたの事情を了解してゐたと思つてゐます。あなたの苦痛、あなたの悲しみをなくさせたいと願つたのです。あなたの無意識の非難の言葉中に眞実も認められたのです。前にも書いた様に、主観的にはあなたをも早、拘束したり不まんを述べる心持はさら／＼なかつたとは云へ、あなたが其の様に感じるところに、私の拘束、私のあなたへの制縛を見た様にも思はれました。それで私は、あなたによりよき成長や発展のためには、障害はふり捨てた方がいゝ事を卒直に申しあげたつもりです。でも、あなたは未だにそれを理解せず、嫌味と解釈して、腹を立てておゐるのです。

私はあなたから弁解やら釈明を求めてはるませんでした。併し、私の云ひ方の中に「私の事は心配せぬよう」と云ふ意味を書いたのが、いけなかつたのかも知れません。それは私の云ふべき事ではなかつたでせう。其の事のために腹を立てておゐるなら、云ひすぎた事はおわび致します。本当に私はあなたの男でも女でも誰とでもの友情関係に於て、あなたを拘束し制縛するつもりはもうとうありません。どうぞ今度こそ信用していただきたいものです。これ以上、私は云ふ言葉がありません。私の事になどこだわるのは、あなたの方でどうかしてゐます。本当にこだはず、自由にあなたの人間関係を発展させて下さい。

「失つた」と嘆いてゐた、と思つたから慰めたいと思つた事が、こんな平手うちを与へられるとは、ゆめにも思ひませんでした。まちがつて同情されたふゆ快程、嫌なものはありませんから、当然だつたのでせう。又あなたの友人関係に、知りもせぬ私がとやかく感想を述べる事もいけなかつた事で、森井さんの事でも村田さんの事でもわる口を云つて、本当にわるかつたですわ。今後はさう云ふ事をしないつもりでゐますから、おゆるし下さい。誠意で云つた事が、こんなにもひどい矢になつてつきささるとは、悲しい事ですわ、矢張り私の無理解やら認識の足りない事に起因したのですね。



白田嬢の事ではいやな思ひをさせて、くりかへしおわび致します。あの人の事では悪意などまるで持つてゐないのに、反対の感じをあなたに与へてゐた事がわかりました。

※この手紙文には目付けが記されておらず、また封筒も失われているため、いつの時点のものなのか確定できない。ただその内容などから、直前に掲載した一二月二三日記の手紙の後、後掲する同二四日記の手紙の前に認められた可能性が高いと考えられるので、便宜的にここに配置・掲載した。

### 謙一から幸子あて（一九四四年二月二三〜二四日の記）

十二月二十三日（土）晴

昨日は十九日付、今日は二十一日付お手紙拝受。

身体の方はもう恢復しましたか。信州もずい分さむいのでせうから、風邪に注意して下さいよ。肺炎になつても葉がないでせうからね。

ここ数日のあなたのお手紙は、身体がよくなくて気持が落ちつかなかつたせい<sup>②</sup>か、余り僕にはいいお手紙でなかつた。十九日付なんかにもまだこだはりがあつて、誤解がぬけ切れてゐないので、こちらで手紙を書く気になれなかつたのです。

あなたがあんな風に一々誇張してとるとしたら、僕は自分の感情を書けなくなる。あなたの感情を思ひやつてばかりりたら、僕の感情は書けなくなり僕の生活は書けなくなる、うそを書くより外なくなる。あなたが信州にゐて友達があるのに、僕がこちらで友達を作るのが、あなたを疎外するのでないことは、僕がこちらで塩飯ばかりしか食べられずにゐて、あなたが信州であたり前のものを食べるのが、僕を疎外してゐるのでない、と同様ぢやないかしら。そして僕は友として交はるからには、なまはんかの交はりに満足出来ない。或る程度相手の生活、殊に精神生活へ参加し、相手をもこちらへ参加させる、さう云ふ友情がたとひどんなに深い情緒を伴ふにしても、恋愛であるとは決して云へない。恋愛は排他的で一人の相手としか出来ない。僕は恋愛及び愛情について、自信のある理論、あなたとの生活を通じて得て来た理論をもつてゐる。ロマン・ローランは愛情の理論をもつてゐるのでなく、愛情の自然を非愛情・無愛情・旧道

徳に対して主張してゐるにすぎない。愛情の自然の中の理法を強調してゐるにすぎないのであつて、その愛情の自然の中の理法を論理化し、之によつて愛情の理論をうち立ててゐるのでない。だからアンネットが何と云ひ、ロマン・ローランが何と云はうと、僕には僕の論理があつて、あなたとの愛情即ち恋愛と、他の人々との愛情すなはち友情とを夫々に正しく深く發展させて行きたいし、さう出来るのです。それだのにあなたは、あなたの「感」か何かで、僕の手紙のこれこれの言葉、これこれの行動の中にあなたの理解するやうな「恋愛」を読みとつて、いつの間にかそれを既定の事実のやうに固定させ、それについて僕を批難し僕の立場をなくさせるのぢやないかしら。

僕は之まであなた以外の誰と恋愛しましたか。豊子さんとの恋愛は、僕の歴史にとつて、より低次の段階の恋愛だったのであり、それは結婚にまで発達する必然性をもたなかつた。その低次の恋愛の克服から、より高次の恋愛としてあなたとのリーベが始まつた。所が一旦はじまると、その条件の困難は、僕等の恋愛を少しも立ちどまらせてくれなかつた。だから、豊子さんとのそれより高次と云ふだけでなく、世界中のいかなる恋愛にも負けない高次へと達した。二人はまだ人間的に多くの欠陥をもつてゐるので、理想的人間の理想的恋愛ではないが、現実的人間として最高のリーベだと思つてゐる。そのリーベから得た僕の間愛情の論理は、最高の愛情論理だと思つてゐる。だからこそ僕はその論理を人に説くのです。しかもその論理を不断に掘り下げ豊富化し發展させて行きつつ。

そして僕達の恋愛をより高次に發展させるために、プランティションを読んでもらひ、毎日相当の時間をさいて手紙を書く。この手紙は僕にとつて一つの勉強なのです。だからこそ積極的に、この時間を楽しみにして書くのです。そしてなるたけすべてを巨細にわたつて、だから一つ一つの感情の動きをも逐一書くのです。楽しかつた時は楽しく、寂しい時は寂しいと。そして僕も人間であつて、いろんな現実と接触するから、その楽しさや寂しさが、あなたとの関係からのみは出ないのも当然でせう。それを一々とりあげては誇張して、現実にもりもしないことをいつの間にかつくりあげ、それで僕に嫌味のやうな手紙を書かれては、全く僕としては手紙を書く気もなくなるぢやありませんか。勉強の一つ、前進の一つとして、原稿がどんなにあつても手紙を書く時間をとつておきたいと思つてゐるのに、その手紙が我々の思想なり関係なりを現実に進ませるのでなくて、誤解の釈明と云ふ全く精力の浪費でしかないことになれば、書く気がなくなりまゝです。かう云ふ誤解の釈明は僕には全く苦手です。ことにあなたに対するとさうです。あなたは僕がああ云へば②こう云ひ、こう云へばああ云ひ式に反駁するし、一旦意地悪い眼で見出すと、中々フランクに僕の云ふことを受け入れてくれない。僕が釈明の手紙を書けば、その釈明ぶりが気に入らなかつたり、どつかの語句をつかまへて、いはば絡ん

で来る。で手紙を書かなければ書かないで、一層誤解を深める。そしてそのいやな釈明や誤解のとり返しと云ふ、やり甲斐のないことのために仕事をやる気も毀損され、何日も不快でゐなければならぬし、他人と会ふこともはばかられる。

僕はあなたはもつと自由な解放された人間関係の理解者だと思つてゐたけれど、案外保守的ですね。かう云ふとあなたは僕へ同じ言葉でシッペイ返しするかもしれない。僕だつてやきもちをやくぢやないかと。だけど僕はあなたがつまらない男と軽薄に交はるのを嫌がるだけで、立派な人との交際は邪魔をした覚えがない。あなたは僕の女の友達はつまらん人ばかりだと云ふが。だけでもうよしませう。

之からは僕もあなたの感情を尊重して、なるだけ自分の感情を抑制するやうにしますが、あなたもどうか僕を信頼して下さい。僕の愛情の理論の正しさ、従つて行動の正しさを信じてゐて下さい。どんなものを読んでも、僕の愛情の理論以上の愛情の理論はないと云つていい（基本的命題では）のですから、ロマン・ローランやその他の人の隻言片句で僕を判断したりしないで下さい。それよりお互ひに信頼しあつて、もつと創造的な、もつと前進的な所へ精力を集中させて行きませう。此の問題については、之が最後であるやうにと念じます。

さて今日のお手紙のアンネットの批評は正しいと思ひます。アンネットは十九世紀末のインテリの要素を当然くつつけてゐます。それは個人主義、ニイチエ式の生命主義、行動主義、それから「女」的要素など。それらはアンネット自身に於ては充分には批判され克服されず、神秘的な「母性」観念の中へ昇天して了ふ。むろんアンネットは、それらの十九世紀末の要素に蝕ばまれて了つてゐるのでない。アンネットの資質はアンネットのそれらを、根本的には健康なものへ色あげしてゐるし、またアンネットは真実、普辺への追求に於て常にせい一ぱい誠実であり、従つて「現実」と妥協せず身を以て斗ふ。世の中の旧道徳や偏見や誤解や形式的なおきてに負けず、真実のために斗ふ。だがその「真実」は、歴史的なものの現実的なものから論理的に把握したものでなく、「魅せられた魂」を以て感じとつたものだ。だからそれは確固として必然的に歴史の本体へ結合して行くのではなく、本能的に、触唇によつてさぐりあてて行くやり方ですね。だがロマン・ローランは、アンネットのそれらを充分に批判克服してゐないにしても、マルクやアーシヤやジョルジュを通じてアンネットのそれらの要素を否定してゐるところあるのでせう。マルクをあなたはいつか、「いやな子」だと云ふ風に云つたが、その「いや」さは実は時代とアンネットの個人主義によつてつくられたもので、マルクが自己の

中のその「いやな」ものを克服するために、どんなに苦しんだことか。だがマルクはアーシャを通じてそれを苦しみ抜いて克服した。アーシャも立派ですね。アンネットはカピタルを読んだかしら。アーシャはカピタルを立ち読みして読み通した。あなたが、アンネットの中の行動主義衝動主義を批判したことは正しいし、マルクやアーシャの苦しみを読みとつたことも正しい。

僕はこの間中から、あなたの森井さんについて書いたものや、僕の森井さんとの会話、白田さんの行動その他を考へて、人間の性格の二つの型について結論を得ようとつとめて来てゐます。之までは人間の生き方について、現実とたたかふ型と妥協する型、個別的自我を普遍的自我へ統合しようとする者(原理を求める者)と個別的自我にとちこもる者、と云ふ風な分類をやつて来ましたが、同じたたかふと云つても、たたかふ方法について性格上の差がどうも甚だ顕著のやうなものです。人の性格と聯関する精神の運動様式に於て、外発的(エクステンシヴ Extensive)と内包的(インテンシヴ Intensive)との差が目立つてゐるやうです。かう云ふ性格のわけ方は陳腐なくらいで、所謂陽性と陰性との対立、躁鬱性と精神乖離性との対置、等々。外向型の人間は行動的で能動的で、自己表現的で社交的で、現実に対して好戦的です。内向型は論理的で受動的で、自己閉鎖的で個人的で、現実に対して余り好戦的でない<sup>①</sup>と云ふ外形をとる。外向型はまた、自己分裂的で我がままで、誇張的でお天気やでもあるが、内向的は因遁<sup>②</sup>で固執的で、観念的<sup>③</sup>自我が固くて、時に偽善的でもある。

あなたは外向型のやうだ。外向型の人間の心すべきは、その行動性をいつでも理論と結びつけること、そのことによつて自己分裂や誇張や軽率さを克服し得る。内向的の人間は、自己の閉鎖性を解くこと、自我を観念的に固定させないこと、論理に対してもつと外発的に前進的にすること(でないとかう云ふ人の論理はただ防禦的なものになる)。僕はどうも外向型の悪い所と内向型の悪いところとを兼ねそなへてゐるらしい。白田君は外向型で、論理的徹底が不充分、即ちあまい。森井さんは内向的である。

では、外向的でも内向的でも論理的努力、意識的努力、普遍への努力、現実とたたかふことによつて、それ自体の諸欠陥を克服出来る。ただその際、外向型と内向型とが相互反撥をする恐れがあるから、その反撥をよく検討しないといけない、理由のあるものかないものかを。自分があんなやりかたをしないからと云つて、自分と別様のあり方を偏狭に否定するのはよくない。問題はさう云ふ傾向とか進み方のテンポ(テンポは内向型がおそい)とかにあるのでなく、現実とたたかふか妥協するか、人生に対して誠実であるか否か、普遍的自我への統合を目ざしてゐるか、之等にある。さ

う云ふ意味では、あなたも森井さんも臼田君も、そして僕も、夫々のやりかたとテンポとに於てであれ、同じ方向をとつてゐるのでなからうか。

僕は森井さんが相当ひどい腹膜炎（腹膜に水がたまつてふくれ上つて、身体中油がういて、それが縮少すると今度はおなか鉄板でもは入つたやうに固くなり、その鉄板がだん／＼と小さくなつてとう／＼とれるまでに二年かそこらかかり、結局前後五年寐たと云ふ大病）を完全になほしたと云ふことで、僕なんかより大分偉いと思つてゐます。僕があなたとのリーベに於て現実に対して勝つたやうに、彼女も物凄い病気に勝つたのですからね。僕の病気は彼女のに比べるゝと問題になりません。結局僕の腹膜なんかは、一日十時間も十二時間も本を読んだりして、一向病気についてまじめに考へなかつたために長びいたもので、痛みとか苦しみとかはなく、ただ寐てゐることの心理的ならさだけだった。彼女はそんな病気で、しかも結婚生活がうまく行かず、ずい分苦しんだことせう。僕も余り彼女をせつついて話させて、苦しませないやうにしようと思ひ始めました。彼女の考へなり言葉なりはちつとも厳密でないし、誤解されやすい後れたもののかげをいたる所にとどめてゐて、話してゐると僕が一々異議を申し立てたくなるけれど。結局僕は、彼女が「あなたの前（まへ）に自分をお見せするのを嫌がつてではないと、それだけは信じて下さいまし」と云ふのを信じ、彼女が言表出来るやうになるのを待つて、それまではその問題とはなれて、僕流の材料で僕の考へなり言葉なりをうんと注ぎかけて行くでせう。

そして僕なんかも、人間的資質の点ではあなたにも森井さんにも臼田さんにも劣つてゐるのですから、もつと／＼交はり（まじり）を誠実にして、あはてずに与へるべきを与へ吸収すべきを吸収しませう。併し結局僕はずい分他人を吸収して来てゐるんですよ。中島君、あなた、羽仁氏、北条君、その他の多くの人々を吸収して来てゐます。それはあなたもよく知つてゐるでせう。かう云ふ吸収は、自分と共通の性質のものを吸収するより、異質のもの（もの）のいい所を吸収する方が、人間が豊富化し、僕の理論も豊富化するわけですからね。

十二月二十四日（日）晴

今日はお手紙二通（切手のは入つたのと、二十二日夜のと）受けとりました。小包届いたさうで安心しました。どうしたんでせうね。

柿を御送り下さるとは何よりです。僕も今度はたばこだけ送りませう。あなたへのプレゼントは、こはれたりするとい

やですからね。一月中には行きたいと思ふが、汽車がどうなるかわかりませんね。行けさうだったら、その時持つて行きませう。

島谷君の召集は知らなかつた。大分前ですな。

まだ原稿があるので、今日は之だけで投函します。毎夜サイレンがなるので、ひるま眠いことです。

ダイヤモンドの原稿料をあげます。二、三日中にお小遣を（ポリーナスからの）送ります。買ふものがなければしまつておきなさい。考へてみたら今日明日は書留が出せないから、このまま出しますよ。

### 幸子から謙一あて（一九四四年二月二十四日の記）

十二月二十四日

かう書いて見て驚きます。もう幾日も残つてゐませんね。何とあはたたく過ぎ去つた一年だつたでせう。又、一方、大変長い一年であつたとも思はれます。

一寸思い出して見ると、一月から十二月まで、下痢に悩まされて健康の点ですつかり自信を失つた事、仕事から離れて一時はほつとして安まつた思ひを得たが、仕事から離れた事は、知らず／＼自信を失はせてしまつてゐたこと、其の自信と云ふのも本当の自信でなかつたらしいこと知り、更に自分の生活力、生き方に自信を失ふところに至りました。以上の点では今年は大体に於て、マイナスであつた。併しプランテーションの勉強で、すこし今までより考へ方の点、進歩を得たと云ふプラスもありました。マイナスの方は私に原因があり、プラスの方はあなたから得たものです。

こちらの生活も中々落ちつけず、一時的腰かけの生活の様に思はれ、早くここから抜け出したいとばかり、あせつてゐましたが、これはようよう此のごろになつて克服出来ました。或は慣れたのかも知れません。此のごろでは身体も自信ないので、この生活が楽で、結局呑気で一番良い様に思はれて居ります。このまゝずつと毎日、自分の好きな様にして暮せるのが、此の戦時下では甚だわるい様ですが、のぞましいと思ふのです。オブローモフでせうか。

今日はめづらしくよいお天気で明るく暖い。昨夜は組合の防空係の人が来て、警報が出たら空襲管制にする様にと云つて来ました。まもなく警報が出ました。二階は毛布やいろんなもので遮光準備は完了させてゐますから、何時もの様に明るくして、アナトオル・フランスをよみました。始めは楽な気持で読める位に思つてゐましたが、人間悲劇は中々い



昨日は分室の忘年会をやりました。昼食は本室の委員会などによくつかふ弁当屋からの弁当を一人当り二本（一本二円五十銭）、之は一通り魚や鯨肉や野菜や洋カン（若干あまい）等がついて、飯も割合ひあり、女子は一本あまらせて持つて帰り、男子の中堀江君は自分の飯をもつて来てゐたので、その分を西井、竹中両君が食べた外は、みんな帯革をゆるめたり、さすがの僕もおしまひは中々は入らずお茶づけにしたくらいでした。之は弁当だけでなく、ケンチン汁をみんな三杯乃至四杯づつ食べたせいでもある。ケンチン汁は例の農家で、さといも、にんじん、大根、ねぎ、かぶら、白菜等の特配を受けて、みんな醬油を持ち寄り、堀江君が油をもつて来て、坂巻、古田両女性が作ったもの。僕と竹中、堀江両君とは朝、本室まで弁当をとりに行き、残りの男連中は特配分以外の野菜（かぶらとねぎと大根）を買つて来るなどして、午後一時にすつかりそろつて、応接室の絨氈じゅうたんの上で大テーブルをかこんだものです。

「今時これだけたつぷり食へる忘年会なんて珍らしいね。ゆつくりくつろげてさ」「さうですね。尤も慾を云へば、之で一ぱいのめるとね」「いや食ふ方がいいよ。しかし竹中君が来てから、ぼくも気が楽になつた。そでないとかやっぱりさすがに余り大ぐらいで気ひけたからね」「併し西井君は上半身でガツガツ食ふから、やつぱり一番大食ひに見えるぜ。ちよつと壯観だからな。竹中君はオチョボ口で、無限に腹へ送ると云ふ型だね。とにかく文句なしに双壁だ」「さうだよ、僕はおそいでね」。竹中君が二本目の弁当にとりかかつた時は、西井君は三本ともケロリと平げてゐました。僕はおつと食べられる筈で、それに弁当取りに本室まで運動して来たので腹もへつてゐる筈なのに、西井君が三本平げてしまつた後でも、二本目の飯をもてあまし気味でした。このあとで松村君が持つて来た一貫目七円のサツマ芋を二貫目ふかしたのが出たが、全く久しぶりの芋でうんとたべたかつたのに、辛うじて一本分かさこらより食べられず、僕も大分胃袋が縮小したやうで、時節柄喜ぶべきかも知れません。芋は西井、竹中両君の独壇場。他の連中は一本か二本しか食べられないのに、この二人は五、六本づつ、それも可成り大きいのをムシヤムシヤ平げました。二時間余りで食事を終る。食べたあとは、竹中君が更に残つた芋を二つ三つポケットに入れて、弁当のからを芸無しの谷川君と二人でまた本室へ持つて行き、堀江、松村、八木、僕の四人はトランプのノートラ。食べることを和歌を作ること以外に能のない西井君はそつくり反つて観戦、二人の女性も観戦、結局僕と松村君の組が三百点勝つて四時半におしまひ。此の頃、昼食時間に将棋よりノートラがもつぱらになりました。将棋は僕がうんと強くて相手にならず、甚は八木君一人強くて之も相手にならず、結局僕がみんなにノートラを教へたのです。始めから知つてゐたのは僕と堀江君との二人で、あと八木、松村、竹中の三君は覚えて。併し勝負ごとは慶応ボーイの方が上達早く、竹中君はあとの二人よりず



つとうまい。僕のみなかつた時、堀江・竹中組と八木・松村組との慶帝戦をやつて、三千点对五百点ぐらいで大敗しましたが、僕がゐると大てい勝つ。ここでは将棋とノートラとピアノとシヤレとは僕の独ダン場です。芸ナシは谷川、西井両君。

日曜日の今日は八木君を訪問する約束をしたが、夕方四時に銭湯へ行つたので夕食がおそくなり、行つたのはおぼろ月の光も頼りない七時半頃。銭湯はまさに戦斗(戦)です。本当に洗ふどころか、却つて気持が悪くなるくらい。兵隊もずい分は入りに来てゐます。女湯はもつとひどいさうです。箱根のお湯のよさが今更ら思ひ出され、一晚四十円も悪くないなと思ひます。

八木君の家は世田ヶ谷中原で、ここから三つ目の駅。始めての家を夜たづねたのも、月の光をあてにしたのだった、その月の光は曇つて一向役に立たず、しばらく探してやつと見つける。

「今晚は」「だれ」「ぼく。きくち」「ああ、おそかつたね。おあがりよ」「ふるへ行つてめしがおそくなつたんだよ。中々いい家だね」「もう寐ようかと思つてゐた所だよ。併し今夜はあたたかいね」「それにクリスマスイーヴだから、空襲も来んだらう」「ああさうか、なるほど。それちや来んね。この辺は組長が一夕起しに来て家中あけひろげるから、夜なかに来られるとかなわん。風邪ひくし、睡眠不足になるしね。君なんかいいよ。いうく寐てられるからな」「さうだね、誰も起しに来んしね。尤も僕等が一夕警戒警報の度に一切の雨戸をあげるとなると大変だよ。あけてしまふまでに大ていの空襲は終つちやふからね。とにかく一色家と云ふのは雨戸の多い家だよ。この家は幾間」「三間だよ。せまくてね」「だけど八畳があるといひね。それに君んちは子供のゐるわりに実にきれいだね。子供が居たと云ふ証拠がまるでないぢやないか」「いや、僕の所の子供は割合おとなしくてね、僕の机の上なんか絶対にさわらないんだよ。しかし菊池さん、あなたは奥さんを疎開させたら原稿書けないと云つてゐたが、僕もどうもいかんね」「君は殊にそのままの家にあるからなあ。その点僕はまだ下宿みたいで、生活形態をすっかりかへたからね。ああ、之が君の……」「長男だよ。その写真は三つの時だ。去年の春だよ」「ふうん。可愛い子だね。実に可愛いぢやないか、君には余り似てゐないのかな」「いや僕に似てゐると云ふんだがね」「さうか、しかし可愛いね」。

「可愛かつたんだがね、実はうまれもつかんやうにしてしまつたんだよ」「何だつて」「やけどさせちやつてね。頭から顔から、左半分まるでおぼけのやうだったよ」「どうしたんだ。一体」「いや、うちのさいくんがね、天ぷら作つてゐたんだよ。その油をね、ひつくりかへして頭から顔からあびて了つたんだよ」「えエッーそいつはひどいな。そいつは大

変だ。それでどうした」「眼までやられてね、実さいあの時は――役所なんか二週間休んぢやつたよ、行く気がしなくなつてね」「そりやさうだらうな。でもよく命が助かつたね」「さうだね。医者もこれや大変だと云つてね。殊に顔だらう。長男の顔をこんなことさして了つて、實際誰にあやまつていいかわからなんだよ。でも医者も一生ケン命になつてね、どうにか顔はさう目立たない程度になほつたんだ。眼も、眼球に傷がついたらしいが、とにかく見えるやうになつてね。ところがね、医者は顔の方に一生ケン命になつて、頭の方を軽視したらしいんだね。丁度夏でね、頭が化膿して左半分ペロッと禿げて了つたんだ」「そりやひどいな。可哀さうに、何とかならんのかね。毛ははえないものかね」「まだ頭の方はいいんだよ。もみあげの辺がね、赤い肉がもりあがつて、片<sup>は</sup>み<sup>たい</sup>になつてね」「ふうん」「だけど手はよくなほつたね。はじめなんか左手がまつくろになつてね、指がくつついてしまふかと心配したけど、殆どあとがわからんほどになほつたよ」「さうか。それにしても大変だつたらうね」。暫くその当座の彼と彼のさいくんととの暗澹たる気持を思つて言葉が出ない。「併しよくあるんだらうね」。僕は青山四丁目へ出る道のセト物屋の主人の顔を思ひ出した。「よくあるだらうがね。普通は大い煮湯をひつくり返すものだが、天ぶらの油だつたからね」「可哀さうだつたね。それにしても何とかならんものかなあ」「何とかならんかと思ふがね」「さうすると君の所は、その長男と下が二人か」「いや一番上が女で、之が六つなんだ。女男男だ」「中々いい子持ちだね」「女の子は育てやすいね。おとなしいからね」。それから彼は大豆のいつたのを出して、ミルク入り砂糖入りの紅茶をこちさうしてくれる。彼には一昔前の知識人の面影がある。俳句をつくり、亜浪と云ふ先生(シヤクナゲ派)の「真哉」と書いた書と、短ザク二つを床の間にかざり、三つの本棚はきちんとしてゐて、俳句や和歌の全集物らしいのが整然とならび、絵馬がかかつてゐる。「僕の俳号は絵馬で云ふからね」。だが此の間の結婚雑談の中で、最も保守的な意見を積極的に云つたのが此の八木君であり、彼の「うちのさいくん」と云ふ言葉の調子の中には、さう云ふ古いものが基調をなしてゐるのです。人物は好いし、見識もあり、我々と共鳴するところも少くないにも拘らず、何と狭くて、自我が固まつてゐて、非解放的かと思ふ。家庭生活も精神生活も彼の容姿までが自己閉鎖的で、此の荒々しい世界的時代のどんなすみにおさまつて、生き過ぎ得るのだらうかと思ふ。ここでは漱石や芥川や明治大正の文人が、ふさはしく生きてゐる。

彼は文学者であり、文学専攻者であり、俳人としても、傷夷<sup>あ</sup>軍人や一般の俳句ファンから短冊を送つて、書いてくれと云つて来る程で、そのつき合ひと云ひ年頃(三十五)と云ひ、まづ日本の知識人の典型なんだらうが、そして他の連中に比べると之でもい分話せる人物なんだが、話してゐて全くはばのせまいものを感じた。竹中君のサロンのよりはも

う少しこく、があり、専門家らしく自信もあるが、結局文人にすぎない。ところが此の文人に云はせると、西井君なんかあまくて話にならないのです。それでも文学論では、彼は僕の意見によく賛成します。だから、まづ、いい聴き手の方で、彼も僕と話したがりませう。だから十時になったので僕が腰をあげても、「終電はもつとずつと遅いんだらう。まあいいぢやないか」としきりにとめたが、また今夜も夜半に起こされるとしたら、彼をさういつまでも眠らせないのは罪だと思つて帰りました。

十二月二十五日(月)曇

久しぶりに曇り。今朝も三時頃サイレンがなつたさうですが、僕は全然知らなかつた。

今日、塩数の子と煮干とをほんのちよつぱり配給受けたので、煮干をつかつて煮物を作りました。さとも、かぶら、おさつを夫々少しづつに、凍豆腐を残つてゐたのを二個とで、昼と晩のおかずになりました。得意のおかずですが、ずい分久しぶりです。

所が、僕がピアノをひいてゐる時、丁度おひる前にいねちゃんのみつちゃんとかやつて来ました。みつちゃんは昨日、いねちゃんここでとまつたのさうです。二人とも弁当をもつて来てゐたので、丁度煮た煮物と、大かぶらのふかしたのを御馳走(?)しました。コンロを二つ起して部屋は暖かく、十二、三度(撰氏)です。煮物にはサッカリンもは入つてゐたので好評で、すつかり平げて了ひました。みつちゃんとは一月下旬頃に信州へ行くことにしました。僕は鎌倉書房に、アメリカ文学全集が七十五円で出てゐたのを買ひたいと思ひ乍ら、つい買へずに来たので、お金のあつち買つとかうと思ひ立つて、廿八日に鎌倉行きをきめました。みつちゃんとかへも寄ります。彼女は大方、大かぶらのふかしたのが気に入つたらしいので、今日残つてゐた二つをおみやげにあげましたが、廿八日にはまた買へるでせうから、持つて行つてあげる約束をしました。みつちゃん、いねちゃんは正月にはここへ遊びに来ませう。

二人は二時すぎに帰りました。僕は頭を洗はうかと思つて、湯をわかし始めましたが、今井先生の御宅へ訪問しなければならぬので、このまま出かけます。帰る頃に湯も湧いてゐるでせう。ではその序に此の手紙を出します。甚だ面白くない手紙ですが、昨今疎不足のせいか頭も重く、原稿の書きなほしに時間もとられて、いい手紙も書けません。悪しからず。桃ちゃんへも書きたいのに書けずにゐます。よろしく御伝へ下さい。

## 謙一から幸子あて（一九四四年二月二六日の記）

十二月二十六日（火）晴

お手紙三通拝受。有難う。小包も御送り下さったとのこと、鶴首して待ちませう。

アナトール・フランスの重要さは、典型的知識人、気どりやで本の虫で、世紀末趣味の所有者で、エピキュールの園の彷徨者、政治や行動と縁のない詩人、耽美者、本来強靱なリアリズムを持つてゐると思へないこのスタイリスト、芥川の師匠、が、さまざまな動揺を通じて、「ペンギン島」や「神々は渴く」の著者となり、七十を越えて民衆デモの参加者、コムニストにまでなつたと云ふことにあるのぢやないかしら。その過程を彼の作品の中に追究して行くことは面白いことにちがひない。彼が芥川なんかとちがふ点（根本的にちがふが）は、人生理解の深さ、ヒューマニズムにあると思ふ。

今、僕も小此木君から昔の世界文学全集のフランス小説集をかりて来てゐます。タイス、克蘭クビュー、フィリップのビュビュ・ド・モンパルナス、バルビュスの地獄、等があります。フィリップも惜しい人ですね。いつかも云つたやうに、フランス、バルビュス、ローラン、ジイド等の行きかたは、十九世紀末から二十世紀へかけての知識人の転回の典型をなしており、それが何れも作品の中で分析出来るから面白いと思ひます。ジイド以外の三人はすべてしつかりと行く所へ行つた。早いかおそいか、動揺的か曲折的か頑固か直線的かの別はあつても。性格のまるでちがふ、文学もまるでちがふ、この三人の行きかたは、何とも知れず興味をひかれます。この三人の發展経路を考へることで、我々の周囲の知識人のありかたとその發展とを理解する鍵が得られます。この三人と対比して、ジイド、ブルウスト、パレス、ルメートル等。さしあたり、ロマン・ローランとフランスとを読んでゐるあなたは、それらについて充分考へながら読んで行くといひと思ひます。

僕は昨夕方今井先生を訪ねて、旅行中のため無駄に帰り、夜、頭を洗つて寝たのですが、風邪が悪くなつたらしく、今朝も起きるのがつらく、お天気はすてきによいのに、頭が重く鈍痛して身体がだるくて元気なし。今日は夕食を早くして早寝ませう。アスピリンをのんで。

此の手紙はもつと書きたいが、もう少し原稿の方をやるので、甚だ愛想なしですが、これくらいにしておきます。熱は

大してなささうだが、寒気がする。うんと寐ればなほるでせう。この所、原稿が面白くて寐不足がたまつたせいもある。タバコ荷造りしようと思つて箱に詰めましたが、之は明日にします。あなたへのお小遣も明日。この手紙は、もうぢき帰る古田さんか坂巻さんに投函してもらひます。

独立戦争はまだ書き直して、今日も朝から二十枚以上書きました。いくら書いても書き直しだから量はふえない。むしろアナトール・フランスがやつたやうに、文章を出来るだけ簡潔にしてゐます。タバコと一緒に、フランスのジャンダークを送りませう。之は島谷君から借りてゐるのですが、彼より僕がもつてゐる方が役に立ちさうです。

ハンコはついでに送つて下さい。柿が来たら、いねちゃんにわけませう。無事に来ればいいが。大分郵便物フクソウして、八木君なんか一ヶ月もつかないで、調べを要求してゐるとか云つてゐます。汽車も何も大変なのでせう。では。

### 謙一から幸子あて（一九四四年二月二十七日の記）

十二月二十七日（火）快晴

昨夜は夕食後すぐふとんをして、夕食（雑炊）を作つた石炭コンロのかんくく起つてゐるのに水を一ぱいはつた鍋をかけ、湯気をしゆんくく立ち上らせて早寐したせい<sup>②</sup>か、今朝はけろりと頭痛もとれ、脈も普通になり、風邪気は簡単に退散しました。さうなるとまた楽しみの原稿で、書いては書き直し、して午前中に十枚も書いたかしら。

此の頃毎朝プールに水がはつて、その水を子供達が割りに来ます。どうやら学校ですすめられたかどうかで中々上手に割つて、その水をプールの縁へ引き上げてなれます。今迄は入りたくてもは入れなかつたこの芝生の広い庭で、氷割りと云ふ堂々たる理由では入つて来た序でに、大ふざけを始めます。「これこれ、お前達はどこから来たのかね。ここぢやみんな一生けん命に仕事をしてゐるのだから、さわがしくしてその仕事を邪魔してはいかん。さうだらう。さあ帰りなさい、帰りなさい」「やあ怒られた」「怒られたぢやないか、余りさわぐからよ」「ギャくドヤく」と出て

行つてすつかり静かになつた。一色老人いつの間にかまたぞろ御殿場から出て来たのです。今日はいよく最後の疎開荷物をトラックにつみ終つて、一部屋（応接間の隣）をあけ渡してくれたのでせう。塩飯だけの昼食を終つて、みんな芝生で雑談してゐる間にも、原稿を書く。この書きかたは〆切に迫はれて猛烈に書く忙しい書き方でなく、一字一字をくそ丁寧に、一句一句を無駄をけつり、科学的論理的に配備し、よく云ふと芸術家が推稿<sup>③</sup>を重ねるやうに書く書き方

です。

そこへサイレンがなりました。八木君がラジオをききに上つて来ました。「仕事?」「うん」「調査会の?」「さう。此の間のやつまた書き直してゐるんだ」「こりやきれいだな。何てきれいに書くんだらうね。全くきれいだなあ。これで何枚?」「今五〇枚だが、之も六〇枚になるかな。一番始めのがこれだよ。これが六十二枚だらう。次がこれ四十二枚。その次がこれ五五枚。今度は四度目で、これが決定版だ」「ふうん。金ちゃんなんか、こんなに書いてやつても無駄ぢやないか」「これは自分で面白くて書いてるんだもの。中々面白いよ、独立戦争も。實際歴史つて奴は面白いな」「あなたの本、まだ出ないの」「いつになることか。併しまだ広告出てゐるから、とにかく出る気なんだらうね」「僕も外務省の仕事昨日出して来たよ。大分骨を折つて自分でもいい出来だと思つてるんだがね。金ちゃんに二、三日前にも外務省から仕事頼まれました云つたらね、『外務省は人使ひがあらいい、期日がないんだつてね。全く人使ひがあらいい』なんて云つてるんだよ。自分があれ程人使ひあらいいのにね。

久しぶりに空襲警報になりました。此の頃は二、三機ぐらいでは空襲警報が出ません。十三日に鎌倉へ行つた時、あれ以来ぢやないかしら。初めの頃の昂奮や好奇心やは、此の頃なくなりました。

始めは芝生で見えてゐました。高度は六千米ぐらいで、友軍機も同じ高さに飛んで、待ち受けたり追尾したりしました。友軍機は白点にしか見えない。空は底抜けに青く、上空は西風が強いらしくて、東から西に進む時はまるで停止してゐるやうに見えました。敵第一編隊が東から西へ、丁度中央線の上あたりを遅々と進み、吉祥寺あたりの上空に日本機が三機待機してゐるのを見たからかどうか、その辺で左に逸れましたが、その時友軍機が一機、白い煙を引いて落ちて行きました。この編隊は八王子辺から引きかへして東進しましたが、その時は追ひ風につて怖しく早かつた。友軍機が追尾したり、編隊を横切つたりしました。僕は途中から原稿の方が面白いので二階へ上り、時々、東部軍情報を下へ仰つぎしました。第三か第四編隊の時、丁度経堂の西北寄り上空で、この近処の高射砲もなつた程の近くで敵一機が白い煙をひいて編隊から遅れました。之のまわりに白い点のやうな友軍機が二、三機とんで、体当りのやうにすれすれに近づいては攻撃を加へてゐましたが、そのまま東南へ相当進んで、とう／＼<sup>(たうとつ)</sup>キリモミになつて墜落し始めました。之は品川の海へ落ちたのださうです。友軍機が数機、白煙をひいて墜落するのを見ましたが、敵機の墜落は一機しか目撃出来なかつた。結局第七編隊までやつて来ました。中央線に沿つたあたりに数ヶ所黒煙が上りましたが、風がひどかつたら、目標からははづれてゐたのでせう。